

コロナ禍における博物館活動

平塚市博物館 藤井大地

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、多くの館園が臨時休館を余儀なくされ、展示やイベント内容の見直しを迫られた。これまで当たり前でできていたことができなくなり、何が正解なのかわからない状況の中、現場の試行錯誤と創意工夫で、博物館活動は続けられた。

本研修会では、感染予防策や新しい展示手法など、様々なコロナ対策を各館園で1つの動画にまとめて共有した。従来の研修会とは異なり、インターネット動画によるWEB研修会とした。よこはま動物園ズーラシア、ニュースパーク（日本新聞博物館）、平塚市博物館の3館園から動画を投稿するほか、各加盟館園からの投稿も募集した。

1. 投稿動画で取り扱うテーマとしたもの

・感染対策防止策

マスク、フェイスシールド、アクリル板、アルコール消毒、空調、換気、検温、ソーシャルディスタンス、来館者の居住地制限、人数制限、事前予約、個人情報の取得など

・業務への影響

常設展示、特別展示、館園内ツアー、講演会、教室、ボランティア、博物館実習など

・新コンテンツや新展示

WEB読み物、アルバム、動画、SNS発信、非接触型展示など

・出勤体制

時差・時短・在宅出勤、オンライン会議、在宅勤務中の業務、体調のチェック体制など

2. 投稿方法

各加盟館園で5分～20分程度の1つの動画を作成し、神奈川県博物館協会事務局に提出していただいた。提出する際は、ファイル転送サービスなどを用いてメールでお送りいただくか、DVDなどのメディアにデータをまとめ、郵送でお送りいただいた。動画は事務局で解説したYouTubeアカウントにアップロードし、リスト化して公開した。

3. 閲覧方法

不特定多数には公開せず、各加盟館園のみ動画のアドレスを送付した。事前にネット環境を調べるアンケート調査を実施し、YouTubeの閲覧環境がない加盟館園には動画を書き込んだDVDを送付した。なお自館で作成した動画は、本研修会以外における公開を認めた。公開期間は令和3年2月10日（水）～3月31日（水）としたが、現在も引き続き公開している。また、視聴いただいた動画について、感想や意見、質問を募集した。

4. 各投稿動画のテーマ

- ①大佛次郎記念館『コンとコトン 大佛夫人と白猫ものがたり』
- ②神奈川県立歴史博物館『夏の特別展の取り組み 展示の新たな対応を模索して』
- ③かわさき宙と緑の科学館『コロナ禍での開館状況』
- ④相模原市立博物館『博物館ボランティアと共に 挑戦したコロナ禍における新たな取り組みについて』
- ⑤新江ノ島水族館『コロナ禍における新江ノ島水族館』
- ⑥日本新聞博物館『コロナ禍での「情報と新聞」の博物館』
- ⑦日本大学生物資源科学部博物館『コロナ下における博物館活動 日本大学生物資源科学部博物館』
- ⑧明治大学平和教育登戸研究所資料館『明治大学平和教育登戸研究所資料館のコロナ下における博物館活動』
- ⑨横浜市歴史博物館『オンラインチケットの運用事例』
- ⑩よこはま動物園ズーラシア『コロナ禍におけるよこはま動物園ズーラシアの取り組み』
- ⑪平塚市博物館『おうちで博物館 動画コンテンツ作成の取り組みについて』

5. 各投稿動画への感想や意見

①大佛次郎記念館

- ・「コンとコトン」という猫と大佛夫人をテーマにした展覧会には可愛さと華やかさを感じました。コロナ禍で世間が暗いニュースに沈む中、「猫」という可愛さにスポットをあてた展示は人の心に癒しを与えてくれることでしょう。
- ・この動画自体は研修用の動画だが、これを見ると実際に展示を見に行きたくなるなと思った。ネコ写真の投票にSNSを使うなどコロナ禍での対策もとられており素晴らしい。
- ・動画による企画展示紹介はとても興味を引き、また新たな学びを得る場ともなり、とても良いと思った。また、コロナ後でも宣伝手法として取り入れれば、ポスター掲示だけでは呼び込めない層に届くと思う。

②神奈川県立歴史博物館

- ・広報にWeb、SNSを利用し、混雑の様子を発信したりするなど、SNSを有効活用していらっしゃいます。インフルエンサーにかけあう積極性が強みであると感じました。当館にも、急な展覧会延期により、ポスター・チラシの日付を修正する出来事があったので、これからの対策法として検討したいです。
- ・1ヶ月に短縮した会期のなかで、内容や規模を可能な限り変更せず展覧会を開催するための様々な工夫をお伺いでき、大変参考になりました。来館者の滞留を防ぐために解説パネルを減らしつつ、会場内配布パンフレットや「ポケット学芸員」、「一言キャプション」等で情報の補助を行う工夫は、当館で展示を行う際にも参考にさせていただきたいと思います。また、動画のなかでご紹介いただいた展覧会特設ページも拝見しました。当館では、会期の変更や外出自粛により会場に足を運ぶのは難しいですが、展覧会に興味を持ってくださったお客様から、図録の通信販売に関するお問い合わせをいただく機会も増えております。一般の電子書籍はオンラインで試し読みのできるものが多い一方、展覧会図録は表紙以外を公開している館は多くないと思いますが、貴館の図録抜粋PDFを拝見し、今後はそういったサービスへの需要も高まるのではないかと感じました。
- ・ポケット学芸員の導入や展示の密度を高めた

分、短いキャプションや手に取れる解説文など混雑が発生しないような工夫をされているのがいいと思った。

- ・動線に自由部分を取り入れたり、解説を配布式や動画にしたり、密にならない工夫が素晴らしいと思った。短いキャプションも印象に残りやすく、展示手法としても面白い。

③かわさき宙と緑の科学館

- ・引き出しの標本展示は写真に、触る展示は見せる展示に変更しており、この転換に機転の良さを感じました。「できない」だけで終わらせず、「それならば、何ができるか」と模索して工夫していらっしゃいます。
- ・ハンズ・オン等の体験型展示が難しくなる中で、最新技術の導入によって新しい展示形態を開拓されていることが印象的でした。特に興味深かったのは、ARコンテンツ「うごく！科学工作」です。こちらの展示では、参加者が制作した工作物を展示し、そこに来館者がARアプリをダウンロードしたiPhoneをかざすことで、工作物が動いている様子を見ることができるといっていますが、作品をつくる人と、iPhoneを介して動く作品を見る人、双方が当事者として展示物に関わることができ、最新のテクノロジーを用いた新たな体験型活動の在り方とお見受けします。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・簡易マスクの提供は、来館者全員が安心して見学できるよい方法だと思う。ハンズ・オンに代わる展示を工夫されているのを拝見し、来館者へ伝える方法を模索する事は大事なのだと改めて感じた。鳥の拡大写真クイズはよく観察する事に繋がり、とても面白い体験展示となっていると思う。
- ・ハンズ・オン展示から見せる展示への変更や剥製の拡大写真から実際の剥製を探すクイズなど、来館者が楽しめるように変更されていた。流行の状況によると思うが、感染対策を実施しながら開館し続けるのは大変だと思った。また、子供向けの発信を行っているのも博物館への興味を繋げ続ける取り組みとして必要性を感じた。
- ・館内での対策の紹介から、ARコンテンツ・動画配信など新たな試みまで、一通りのことを簡潔

に報告した内容になっていて、1館としてどこまでのことがやれるのかという事例報告として参考になりました。

④相模原市立博物館

- ・体験型展示ができなくなったため、黒電話や絞り機つき洗濯機、風呂敷など昔の物を紹介する動画を作り、YouTubeの公式チャンネルでも公開したそうです。こちらも、コロナ禍だからこそ行われた挑戦です。
- ・小学生向けイベントを動画で伝えるのはいい試みであると思う。博物館に求められる部分ではないのかもしれないが、文章で伝えてチャレンジし、動画で正解を知るとというのが文章を読み解く力を付ける手段として有効ではないかと思った。
- ・動画作成はほとんどしたことがないので、今後チャレンジしてみたいので勉強になった。できる事を積極的に探す姿勢は見習いたいと思う。

⑤新江ノ島水族館

- ・ふれあいコーナーの停止やビニールカーテンの設置など工夫が行なわれておりますが、悠々と泳ぐ魚たちを見ると、コロナなど忘れ、何も気にせず楽しんで満足感を得られます。市内の医療従事者へお菓子を寄贈するなど直接協力する姿勢がすばらしいと感じました。
- ・来館者がいない環境の変化で、カニが隠れるようになったというのは来館者がとても多い施設ならではだと思った。生体展示の施設では環境の変化の影響が大きいですね。
- ・来館者が来なくなったことによる生体の反応の変化は当館でも起きたので共感した。

⑥日本新聞博物館

- ・新型コロナウイルスだけでなく、コレラ、スペイン風邪、天然痘など、過去に大流行した病について掲載した新聞も所蔵から出して展示したそうです。過去を知ることは未来に役立ちますので、当時の世間の声を知るには、新聞は最適の資料です。現在、自分好みの情報ばかりに接しがちなSNS時代になり、様々な世代・属性の人が、社会の共通の文脈を知り学び合い、対話できる場が必要と聞き、そのような見方をしたことがなかったので新たな発見を得ること

ができました。

- ・ジャーナリズムの役割やあるべき情報との向き合い方を伝えるという館の理念を、情報が氾濫したコロナ禍の情勢と結び付け、独自の取り組みを展開されている点に強い感銘を覚えました。特に昨夏に開催された緊急企画展「新型コロナと情報とわたしたち」では、新聞がコロナをどのように報道したか、コレラや天然痘をはじめ歴史的に感染症の情報がどのように伝達されたか、不安定な情勢下で人々がどのように情報と向き合えばいいかといった問題に光が当てられ、これは渦中であって早々にコロナを展示対象とした貴重な事例であるとお見受けします。本動画を通して、各館がそれぞれの理念や特性を生かしながらコロナ禍の社会と向き合うことの大切さに改めて気づかされました。貴重なご報告ありがとうございました。
- ・コロナ禍での休館、テレワーク中でもずっと発信を続けているのがすごいいと感じました。
- ・動画作成は未着手だが、既に溢れているという現状を知り、さすが情報の博物館だなと思った。

⑦日本大学生物資源科学部博物館

- ・標本や剥製の天敵であるカビや害虫のために、除湿器や捕虫器などの機材を増やし、ドアはブロックするなど、閉館中に行なった対策は万全であると見受けられます。手作りの飛散防止パーテーションは、展示用品の在庫や展示作成業務のスキルがある博物館だからこそ作り出せた対策です。しかも、動画の中で、他の博物館に対して、パーテーションの作り方を伝授してくれることで、とても参考になりました。
- ・博物館実習はコロナ下で取りやめた館が多かったため、事例を共有していただいて大変参考になりました。当館では感染対策をした上で基本的には全て館にて実施しましたが、オンデマンド方式というのは目から鱗でした。

⑧明治大学平和教育登戸研究所資料館

- ・休館中にSNSで発信なさった「#謎の便器」の情報を求めるツイートは、大変興味深いです。動画の作成やZoomの利用など、ネットを使った試みに積極的であると感じられます。
- ・同じ大学博物館として、一般開館できないもど

かしさは、大変よくわかります。その中で、オンラインの企画展開催やSNSの積極的利用等、見習いたいです。オンライン展示は、来館できない方への有効な方法かと思しますので、アフターコロナでも発信する必要性を感じました。館内のサインも館の特性を活かした素晴らしいもので、来館者を楽しませる工夫が館の隅々まで溢れているのだと思いました。

- ・本学も入構制限下にあり、決められた講義の履修者のみの利用が可能だが、実際、入構許可者のみ入館が可能でどれくらい来館者がいるのか気になった。

⑨横浜市歴史博物館

- ・オンラインチケットの取り組みと、普通のチケットの購入方法を比べ、時間も接触も減らすことができると認識できました。オンラインチケットを導入した場合、利用者は13%で、多くはないですが、早くから試みる人もいます。それを踏まえて、今後の導入を検討したいと思います。
- ・当館では現在オンラインチケット等の導入は行っておりませんが、予約観覧などの導入を検討する中で、貴館での具体的な運用事例は大変参考になりました。貴館の展覧会でオンラインチケットを利用した方は全体の13%とのことでしたが、当館は比較的高齢層の来館者も多く、システムを導入してもコストに見合った活用に結び付けるのが難しいのではないかと感じておりました。一方で、連絡シートの記入不要や、集客につなげるアンケートの集計も行えるなど、様々なメリットもあることをお伺いでき、コロナ禍での対応を検討する上で参考にさせていただきたいと思います。
- ・オンラインチケットの運用例が参考になりました。当館もですが、インターネットやスマホに慣れていない年配のお客様への対応（適用）が課題と感じました。
- ・オンラインチケットの導入について、スマートフォン等を利用しない層への普及が難しいことがわかった。招待券、割引券は今後シリアルナンバーの活用を行っていけば対応可能だと考えられる。
- ・オンラインチケットや予約制は、混雑緩和の効果もあり、通常時でも来館者の立場から歓迎し

たいです。課題面でも挙げていらっしゃいましたが、滞在時間の問題はあると思います。完全入れ替え制にするのか、滞在時間に応じた従量制の場合は1時間だと¥800、2時間だと¥1,200（25%割引）にするなど。じっくり見てほしい気持ちもあるが、密も避けたい。両極端な課題だが、試行錯誤していくしかないと感じました。

- ・オンラインチケットのシステムについて、選定事業者、選定理由、チケットのメリットとデメリットなど、具体的な説明が多く、たいへん勉強になりました。とくに利用率が13%という点は、インターネット弱者の存在をあらためて痛感いたしました。

⑩よこはま動物ズーラシア

- ・普段は見られない獣舎の裏、閉園後の動物の夜間など、通常なら見ることができない動物の一面をあえて公開することで、休園中だからこそ見られるという特別感があります。特定の動物に合うために通っていたお客様にとって、SNSやYouTubeで動物たちの様子を配信してくれるのは嬉しいに違いありません。
- ・来園者へのサインを動物のイラスト等を使用した楽しいものにして、コロナ禍の制限が多い鬱屈した状況をやわらげていて、とてもいいなと思いました。
- ・休館中もズーラシアに行きたいお客様向けの発信を行っていて、興味を持ち続けてもらうのが重要だと思った。

⑪平塚市博物館

- ・天文学の道具は高くつくので、実験をためらいがちな人に向けて、身近な物を使えば、自分の手を動かして頭で考え、新しい観察や実験ができるのだと伝えるために考案されたと聞き、「ものづくりエーター」は、身近なもので、工夫して代用する精神を伝える良いコンセプトと感じました。縄文人の人形に注意喚起のためマスクをつけるなど、展示品すらソーシャルディスタンスを気をつける様子に遊び心も感じます。
- ・動画を配信するにしても、ゆっくり見られる動画とテンポよく進行する動画があり、需要に合わせているのが素晴らしいと感じた。
- ・動画作成は、来館して触ってもらえば聞いても

らえば分かることを、どう伝えるかが難しいですね。動画時間に対して、製作に係る時間は何倍にもなるかと思えます。さらに、その動画を見つけてもらう方法など発信力が今まで以上に重要なのだと感じました。

- ・動画の制作工程の裏側や苦労話は、興味深く拝見しました。動画コンテンツも見たくなるような内容が多く、ただ動画を撮って作るだけではなく、興味を持ってもらえるようなコンテンツを制作するスキルが学芸員に必要とされるのかもしれないと感じました。
- ・県の電子申請システムを実際に使用されている例を県の博物館関連以外で初めて拝見しました。当館の行事では別システムでの予約を行っているため、どのような感じなのかもう少し詳しく伺ってみたいと思いました。

全般

- ・多くの館園でYouTube、TwitterなどのSNSやコンテンツを制作し、閉館中においても学習支援の場を提供することにより、社会教育施設である博物館としての役割を果そうと取り組まれていたことがよくわかりました。こうした情報技術を活用する動きは、新型コロナウイルスの終息後も継続することは間違いないなと思いました。

- ・どちらの館も動画に個性があり見比べる楽しさがありました。
- ・逆に動画があふれている状況から「何なら出来るか」を考えていかなければと悩ましいです。

6. 反省点

今回は対面型研修の代替手段として、動画投稿による研修を実施した。アンケートの内容から、コロナ禍の混乱の中でも動画を通じて各館園の状況を共有できたことが伺える。今後も研修会の実施手法の一つとして活用できると考えられる。

ただし動画作成は講演者の負担となり、動画作成環境や技術を持たない加盟館園は情報発信を行えなかった。またYouTubeを閲覧できない館園も多く、DVDの作成と配布は事務局側の負担も大きかった。当初は動画投稿以外にも、Zoomなどリモート会議システムを活用した研修も検討したが、ネットワークシステム上の問題でリモート会議を実施できない館園が少なからずある。各館園でネットワーク環境を整え、動画作成技術を共有していく必要があると考える。